

思考力を高めるための暗唱の取組

～五色百人一首の実践から～

十日町市立十日町小学校 教諭 高橋 雅彦

1 暗唱のねらい

覚える（記憶する）ということは、単に知識の量を増やすことばかりを指すものではない。「記銘」「保持（貯蔵）」「想起」の一連の過程がスムーズにできるようになって、初めて覚えたといえる。この3つのどれが欠けても必要な情報を生かすことはできない。実際、人の脳の中には、普段は想起されない情報がたくさん眠っている。それを必要なときに自由に利用することができる活性化された脳にすること、すなわち思考力を高めることが暗唱のねらいの一つである。

2 実践の方法

1学期は、詩や漢文、落語など30以上の文章を用意し、どの程度の長さの文章を児童が記憶し、暗唱することができるか実践してみた。2学期、私が選んだ記憶すべき対象は「百人一首」である。5年生の教材としてはやや難解のように思えるが、以前に同僚が小学校4年生の学級で実践して、効果を上げていたことをあった。100首全てを記憶した児童が何名もいた。

いい点	不向きな点
古典として学習する意味が高い。 覚えた量がわかり、確認しやすい。 100首と目標がはっきり決まっている。 覚えた後に、ゲームができる。	文が古典独特の文体で難解である。 文の意味が分からない。 100首と量が多い。

1日に1首覚えたとしても全てを覚えるためには100日必要となる。いきなり100首全てを覚えることは難しいので、「五色百人一首」に注目した。御存知の方も多いと思うが、これは百人一首を20首ずつに分け、「青、緑、黄色、オレンジ色、ピンク」の5色にグループ分けしたものである。遊び方の公式ルールも存在する。色ごとに20首を載せたカードを印刷し、期限を決めていくつ覚えられるかを記録することにした。文の表記は漢字と平仮名の両方にした。

＜進め方・ルール＞

- ・暗記は家庭学習などで自主的に行う。
- ・担任に聞いてもらう（チャレンジする）のは休み時間のみとする。
- ・一度のチャレンジで合格できるのは3首まで。※1首でも構わない。
- ・チャレンジは1日1回のみ。※これ以上聞くのは大変。
- ・1色は3週間で終了。

3 実践経過

当初、覚えることが苦手な児童のために、期限を決めずに1つの色を最後まで覚えさせようとしたが、学

習意欲が高まらず、3週間でどこまで覚えることができるかという目標に変更した。逆に、百人一首にある程度の知識がある児童は、意欲的に取り組み、期限の3週間よりも早く次の色に取り組むようになった。以下の表が10月末現在の結果である。

	黄色	オレンジ	緑	青	ピンク
合格者数(人)	12	9			
平均(首)	14.94	14.55			

○合格者 … 20首を3週間で覚えることのできた児童数

○平均 … 覚えた歌の数を学級の在籍数でわったもの

黄色に比べオレンジの合格者が少ないのは、その期間、当校の文化祭や練習が行われており、児童が休憩時間に自主的にチャレンジすることができなかったことによる。

百人一首のゲームは全ての色を終了してからにしようと考えていたが、意欲を高めるために、途中で実施してみることにした。ピンクの20首を覚えるのは3学期となるため、実践結果の公表はそれ以降になる。実際、この百人一首の指導をしていて、私自身も歌を少しずつ覚えることができた。児童のチャレンジを聞くときに、間違いがないか文面を見ていることによる。担任も児童にも学習の成果が見られる課題といえる。